

創立150周年 9月号（令和5年8月31日発行）



kurosyou-dayori

鉄小だより

<http://www.edu.city.yokohama.jp/sch/es/kurogane/> 横浜市立鉄小学校

暑い夏 熱い思い

校長 玉置 恭美

令和5年度の夏休み、4年ぶりに日本各地で地域のお祭りが開催されました。郷土や地域の繋がりが感じられる夏の催しは、心温まり、思い出深いものです。暑いなかですが、学校生活がスタートします。児童たちには、夏休み前にたてた目標より、さらに少し上を目指した目標をたてて、それぞれが頑張ってもらいたいと伝えました。

ニュースで、「観測史上最高気温」を記録した地域について報道がありました。甲子園での高校野球全国大会では、5回終了後に10分間のクーリングタイムが設けられるなど、熱中症予防を第一に考えるような夏。第105回大会である、今年の全国高校野球選手権大会では、神奈川県代表の慶応義塾高校が107年ぶり2度目の優勝を果たしました。前任校がすぐ隣にあったため、卒業生も多く進学している学校が日本一となりました。地元日吉は、連日写真を撮りに来る人が後を絶たないほど、過去にない賑わいを見せていたそうです。甲子園のアルプススタンドで応援する生徒たちの中に、卒業した〇〇さんたちがいて、神奈川県代表を応援していると思うと、胸が熱くなりました。

その他のスポーツでも大きな大会がありましたが、横浜市緑区の小中学校を卒業し、昨年オリンピックにも出場した泉谷選手が、世界陸上の110mハードルで入賞したことも、とても嬉しいニュースでした。その選手が中学校の時の、部活動の顧問の先生から、中学校時代の話をお聞きしました。当時は選抜選手でもなく、大きな大会に出た経験も少なかったけれど、誰よりも練習が好きで、その折々に顧問の先生からのアドバイスを熱心に聞き、謙虚にフォーム等を改善することに取り組んでいたとのことでした。常に自分の目標に向かって真摯に取り組む姿を、高校、大学の先生が大切にしてくれた結果が今である、とその先生は言っていました。小さな目標を設定し、それを達成したら、次の目標に向かうこと、思うようにいかないこともあるだろうけれど、それを自分で乗り越える力を身に付けること、スポーツのみならず、様々なことにおいて、それが大切なことだと改めて思いました。



鉄小田んぼ 実りの季節